

## S2-1

# 心療整形外科という視点

## — 身体科医にしかできない心身医療 —

谷川 浩隆

谷川整形外科クリニック

「腰痛診療ガイドライン」では、腰痛の85%が原因を特定できない非特異的腰痛であるという、ある意味ショッキングな結果が明記された。しかし整形外科の日常臨床をしていれば、外来腰痛患者の8割が、痛みの原因を特定できないということは驚きでもなんでもなく、むしろ周知の事実というか、当たり前前の事柄である。非特異的腰痛のすべてが心理的要因ということでは決してない。どこかに身体的要因があるのだが、その原因がMRIなどの現代医学が誇る精密検査機器を用いても特定できない、という意味なのである。これは特殊なことや珍奇なことではなく、従来から他の領域でもみられるきわめて一般的なことである。腹痛、胸痛、頭痛、あるいは歯科領域の口腔痛、舌痛の多くが、非特異的疼痛であるのは周知の事実である。

これらの疼痛を機能的疼痛と、現在のところ、そう呼んでいる。では機能的疼痛と心因性疼痛はどのように違うのであろうか。そして心身症とどのように関わってくるのであろうか。その定義も関係性もあいまいなまま、現代医療のトレンドは「身体」「検査所見」「器質的原因」へとまっしぐらに進んでいる。医療者も患者も、身体症状があれば必ず画像検査や血液検査などの他覚的検査で異常が見つかるはずと信じ込んでいる。そこには現代人の医療に対する過剰な期待や信じ込みがある。こころの原因を、なんとしてでも身体的要因の位相に置換しようと試み、心身相関という言葉でさえ、都合よくその手段として使用されている。

「心療」は「内科」でしかできないわけではない。心身医学はすべての診療科で必要なことであると考え、演者は心療整形外科という視点を提唱してきた。整形外科や歯科にも、身体的治療と同等以上の心身医学的視点が必要である。心療内科や精神科では決してできない心身医療がある。さらにいえば身体診療科医だからこそできる心身医療、身体診療科医にしかできない心身医療が必ずある。

---

## 略 歴

---

谷川整形外科クリニック院長。

1987年、信州大学医学部卒業。

1991年から2年間、癌研病院整形外科フェロー医員として骨軟部腫瘍を学ぶ。

1993年に帰局後、腫瘍班チーフとして骨軟部腫瘍の臨床に従事。

1995年、医学博士(信州大学)の学位取得。

1997年、安曇総合病院整形外科。

1998年から精神医学の研修を受け、以後、運動器の心身医療の臨床を実践し、痛みとところに関係するさまざまな研究成果を発表、「心療整形外科」を提唱する。

2005年、同院副院長。

2007年、信州大学医学部臨床教授。

2013年、谷川整形外科クリニック開設。同年「腰痛をここで治す 一心療整形外科のすすめ」(PHPサイエンス・ワールド新書)を上梓。

整形外科専門医、心療内科学会評議員、リハビリテーション医学会専門医、リウマチ学会専門医、日体協会公認スポーツドクター